

株式会社エス・エム・エス



Mistで安定した無線LANを実現 UIに“ほれ込んだ”のが採用の決め手

2003年の創業以来、「高齢社会に適した情報インフラを構築することで価値を創造し、社会に貢献し続ける」をミッションに掲げ、高齢社会を介護、医療、キャリア、ヘルスケア、シニアライフ、海外と捉え、さまざまなサービスを開発・運営している株式会社エス・エム・エス（以下、SMS）。

介護事業者向け経営支援「カイポケ」を初め、高齢者住宅情報「かいご DB」、介護職向け求人情報「カイゴジョブ」、介護をする家族向けコミュニティ「安心介護」、管理栄養士による遠隔チャット指導「特定保健指導サービス」や「糖尿病重症化予防サービス」など40以上のサービスを展開している。

■ Mist との出会い

情報インフラ構築による価値創造を目指す SMS にとって、ネットワークは生命線といっても過言ではない。顧客向けのサービス提供はもちろん、より良いサービスの提供を支援するバックオフィス業務においてもネットワークは重要になる。しかし、社内の無線 LAN が急速な人員拡大で増強が追いつかず、場所や時間帯によって無線 LAN がつながりにくい状況になってしまっていた。経営インフラ部 システム企画グループ グループ長の佐伯努氏は、「2017年8月に入社したのですが、入社時のオリエンテーションで、無線 LAN がつながりにくいという課題を感じていました。」と当時を振り返る。

情報システム部門への配属が決まった佐伯氏。「時間や場所によって無線 LAN がつながらなくなるので、経営層や従業員にとってはストレスを感じる状態だったと思います。現状では、レポート以外に解決策がない状態でした。」（佐伯氏）。また問い合わせがあったときに、原因を特定することが困難なことも課題の1つ。佐伯氏は、「とにかく、管理ツールのユーザーインターフェース（UI）が使いにくく、ホスト名や IP アドレスを特定しても原因が分からない、ログを見ても分からない状況でした。」と話す。

「いまの無線 LAN を改善し続けるのでは追いつかないと思いました。」と佐伯氏。無線 LAN は全社導入されているものなので、一度に交換することは現実的ではないが、根本的な改善策が必要だった。そこで2017年11月より、無線 LAN の刷新について検討を開始した。佐伯氏は、「いろいろなベンダーに提案を依頼して、提案力や技術力、構築力などを評価しました。提案内容は、どれも普通で面白みに欠けていたのですが、その中で気になったのがネットワンパートナーズから提案された“Mist Systems”でした。」と話している。

会社概要

株式会社エス・エム・エス
 所在地 〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-1
 住友不動産芝公園タワー
 設立日 2003年4月4日
 資本金 21億6,765万円(2018年3月31日現在)
 従業員数 連結:1,953人:
 単体:307人(2018年3月31日現在)
 URL <https://www.bm-smc.co.jp/>

課題

- 無線LANがつながりにくい課題に直面
- 管理ツールのUIが使いにくく問題の原因究明が困難
- 問題発生時にレポート以外に解決策がない状態

導入製品

- AP41 54台, AP21 31台

導入効果

- 無線LANが切れることがなくなりネットワークが安定した
- 専門的な知識がなくてもAPの設定・管理が容易に可能
- 使いやすいダッシュボードでほしい情報がすべて手に入る
- ダイナミックパケットキャプチャ機能で迅速な原因究明



株式会社エス・エム・エス
 経営インフラ部 システム企画グループ
 グループ長 佐伯努氏



“ネットワークエンジニアが本当に欲しい機能が数多く実装されているのがMistです”

株式会社エス・エム・エス 経営インフラ部 システム企画グループ グループ長、佐伯 努氏



■最低限の知識があれば AP の設定も簡単

SMS では、2018 年 4 月に Mist を採用することを決定。5 月初旬に、まずは 1 フロアに Mist を導入し、続いて 5 月中旬、5 月下旬と合計 3 回に分けて全フロアに Mist を導入した。佐伯氏は、「一斉にリプレイスするとリスクが大きいので、まずは経営インフラ部に導入して検証を行い、順次各フロアに展開していきました。」と話す。東京本社で安定稼働したことから、9 月に札幌事業所に、11 月に大阪事業所に、Mist を導入した。



株式会社エス・エム・エス
経営インフラ部
システム企画グループ 吉田 航氏

2018 年度中には、全事業所への導入を完了する計画という。

現在、東京本社に 60 台、札幌事業所に 6 台、大阪事業所に 6 台の AP を設置している。残りの約 25 事業所には、各 1 台程度の AP を設置する計画。佐伯氏は、「Mist は、AP を設置して、ダッシュボードから簡単な設定をするだけで“パツ”とつなが

るので便利です。物理的な距離がある事業所も一元管理できるので、もし問題が発生しても簡単に原因を究明できます。Mist を導入したことで、無線 LAN が切れることもなくなりました。」と笑う。

仮に特定の部門で「パフォーマンスが悪い」という問い合わせがあった場合でも、Mist のダッシュボードに表示された情報から「動画を見ていることが原因」とか、「その場所は混んでいるのでほかにうつつてみては?」という的確アドバイスができる。佐伯氏は「従業員に“管理部門は話を聞いてくれる”といった感覚が醸成されています。」と話す。

また、経営インフラ部 システム企画グループの吉田航氏は、次のように語る。「他社製品は、仕様を完全に把握していない

と設定変更が困難でした。Mist は、最低限の知識があれば、AP の設定も簡単にできます。使いやすい UI はもちろんですが、今後はオンプレミス環境を減らしていく方向性なので、クラウドサービスという点も評価しています。」

Mist の採用を決めた理由を佐伯氏は、「UI に“ほれ込んだ”のが採用を決めた最大の理由です。Mist のダッシュボードは、クライアントの情報やアクセスポイント (AP) の状態が見たいなど、ほしい情報がすべて手に入ります。また他社製品は、問題発生時にキャプチャが取れないことが不満でした。Mist は、ダイナミックパケットキャプチャ機能により、問題発生時に自動的にキャプチャを取得してくれるので原因究明が迅速にできます。」と話している。

■ BLE のようなエッジの効いた機能に期待

今後の Mist に対する期待を吉田氏は、次のように話している。「他社での採用実績がなく、ウェブにもあまり情報がなかったので若干不安はありましたが、実際に使ってみて製品の良さは十分理解できました。今後はユーザー会が作れるくらい導入実績を増やしてほしいです。

また、ビーコン (Bluetooth Low Energy) にも興味があります。たとえば会議室の入退室状況を可視化できるようにするなど、IoT として活用できる将来性を兼ね備えている点も魅力的です。こうしたエッジの効いた機能にも期待しています。」

一方、佐伯氏は、「これからは現状を固定せずに、ゼロベースで検討し、必要に応じて最新のテクノロジーも導入していきたいと思っています。ネットワークエンジニアが本当に欲しい機能が数多く実装されているのが Mist です。Mist には、ただの無線 LAN 導入で終わらない可能性を感じており、今後の製品強化に期待しています。」と話している。